

ケース会議の実施

実施場所

中学校

実施時期

1学期

参加者

学級担任・特別支援教育コーディネーター（特別支援教育主任）・保護者
放課後等デイサービスの職員2名

目的

不登校傾向のある生徒の学校や放課後等デイサービスでの様子を共有し、
解決に向けての環境設定や支援を具体化、明確化する

内容

- 中学校での様子や支援内容の共有
 - ・中学校での状況を、本生徒の性格、中学校への適応状況、欠席が増え始めた時期、苦手なことや楽しみにしていることなどを踏まえて共有する。
 - ・個別の教育支援計画、個別の指導計画での目標を共有する。
 - ・進路についての本人の意思や、保護者の希望を踏まえ、学校での学習や宿題に対する状況を共有する。
- 放課後等デイサービスでの活動の様子
 - ・デイサービスでの、活動内容やスケジュール、人数、集団活動への参加の状況、ルーティーンや、宿題への負担感の状況を共有する。
 - ・デイサービススタッフの支援の状況を共有する。
- 共通して取り組みたい配慮について
 - ・中学校とデイサービスでの状況を共有し、本生徒にとっての最優先の目標を共有するとともに、本生徒の実態から、学校の役割とデイサービスの役割を区別することにした。
 - ・学校では、ストレスの軽減を図りながら、継続して登校し、学校生活を送る中で達成感や人と関わることの楽しさを感じることができるようになることを目標にした。また、苦手なことに対する支援や配慮を行いながら学習に取り組むことで、成功体験を積めるようにした。
 - ・デイサービスでは、学習的な活動を減らし、本人が安心できる場になるようにした。

成果

- ・自分の得意なことを生かしながら成功体験を重ねる中で、2学期以降は欠席が大幅に減り、小学生のときは参加が難しかった行事にも参加することができた。（学校）
- ・保護者は登校できるようになったことに安心し、本人の頑張りや成長を認めるようになった。進路についても本人の希望や実態を踏まえながら、柔軟に考えるようになった。（保護者）
- ・デイサービスではリラックスして過ごすことができるようになったが、学校生活が充実してきたので、2学期以降はデイサービスの利用が減った。下校時のデイサービスの送迎も利用しておらず、自分で公共交通機関を利用して下校するなど、自立に向けた成長が見られるようになっている。（学校・デイサービス）